

第46回全国特別支援教育センター協議会研究協議会（愛媛県大会）

第2分科会（研修）

主題「特別支援教育を担うすべての教師の専門性の向上に向けた取組」

# 「特別支援学級の専門性向上に向けた取組」

令和4年10月28日（金）

川崎市総合教育センター

特別支援教育センター 伊藤琢也

# 内容

- 1 はじめに
- 2 現状と課題
- 3 専門性向上に向けた取組と成果
- 4 今後の課題

# 1 はじめに

## かわさき教師塾

### 組織案内

#### 総務室

[カリキュラムセンター](#)

[情報・視聴覚センター](#)

[特別支援教育センター](#)

[教育相談センター](#)

### 所在地・連絡先

#### 川崎市総合教育センター

〒213-0001

川崎市高津区溝口6-9-3

電話:044-844-3600(代)

FAX:044-844-3604

[【アクセス】](#)



### 新型コロナウイルス感染症に関わる対応について（2021.01.08～）

[川崎市 報道発表資料へのリンク](#)

### 川崎市総合教育センターとは

川崎市総合教育センターは、「カリキュラムセンター」「情報・視聴覚センター」「教育相談センター」「特別支援教育センター」の4つのセンターと総務室で構成され、川崎市の教育の充実および振興を図ることを目的に利用されています。

### 川崎市におけるGIGAスクール構想について

- [かわさきGIGAスクール構想（川崎市教育委員会）](#)

### 相談のご案内（一般・保護者の方へ）

### 関連情報

[わが町かわさき映像創作展](#)

[視聴覚センター・ライブラリ](#)  
[二](#)

### 学力・学習状況調査

[全国学力・学習状況調査 川崎市報告書](#)

[川崎市 学習状況調査報告書](#)

### 教育用コンテンツ

[教育用コンテンツ](#)

[かわさきの歌](#)

### 外部リンク

- [川崎市教育委員会](#)
- [川崎市立図書館](#)
- [かわさき子ども読書100選](#)
  - [小学校低学年版](#)
  - [小学校高学年版](#)
  - [中学生版](#)
- [かわさき宙\(そら\)と緑の科](#)

# 総合教育センター — 特別支援教育センター

●主な業務（室長1名、指導主事7名、心理13名）

1. 就学相談・一般相談（相談室）

\* 毎年、約1,000件の新規相談（発達障害等）、就学相談（約700件）

\* WISC-IV、K-ABC II などのアセスメントなど（無料）

\* コンサルテーション

2. 特別支援教育にかかわる研究・研修

3. 教育課程にかかわること

4. 特別支援教育（児童支援）コーディネーター連絡会議

5. 特別支援学級・学校担当者会

6. 学校対応・学校支援・保護者対応

# 川崎市について

- 神奈川県の北東部に位置し、多摩川を挟んで東京都と隣接。横浜市と東京都に挟まれた、細長い地形。人口150万の政令指定都市
- 特別支援学校（市立4校、県立3校）
- 特別支援学級 小学校 2,295名 506学級（114校）  
中学校 906名 193学級（52校）  
（附属中を除く全校に設置）
- 通級指導教室（言語7教室、情緒関連7教室）



# 本分科会の報告趣旨

1. 「特別支援教育を担う教師の養成、採用、研修等に係る方策について（通知）」  
（3文科初第2668号）令和4年3月31日  
「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について（通知）」  
（4文科初第375号）令和4年4月27日
2. 特別支援学級の専門性向上に向けて、主催している担当者研修や会議の在り方
3. 参集・対面型の研修コンテンツの工夫に加えて、特に現場のニーズを踏まえた「オンライン研修・会議の活用」を模索
4. 問題解決的な学習経験することは、子供の学びにおいてだけでなく、教員の資質・能力の向上を図る研修にも応用
5. 「OFF-JT」から「OJT」主体の研修体系へ
6. 共生社会の実現に向けて、全ての教師の「特別支援教育」の専門性の向上

## 2 現状と課題

# 川崎市の特別支援教育

	全国（R元）	神奈川県（R3）	川崎市（R3）
特別支援学校	約0.8%	約0.5%	<b>約0.4%</b>
特別支援学級	約2.9%	約3.0%	<b>約2.7%</b>
通級指導教室	約1.4%	約1.0%	<b>約0.9%</b>

< 出典 > 「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」（令和3年1月）資料

「令和3年度 神奈川県の特別支援教育資料」（令和4年3月）

障害の程度を問わず、地域の小中学校で学んでいる

# 特別支援学級の現状

- 学区に1名でも対象児童生徒がいれば、学級を新設
- 交流及び共同学習も日常的に実施

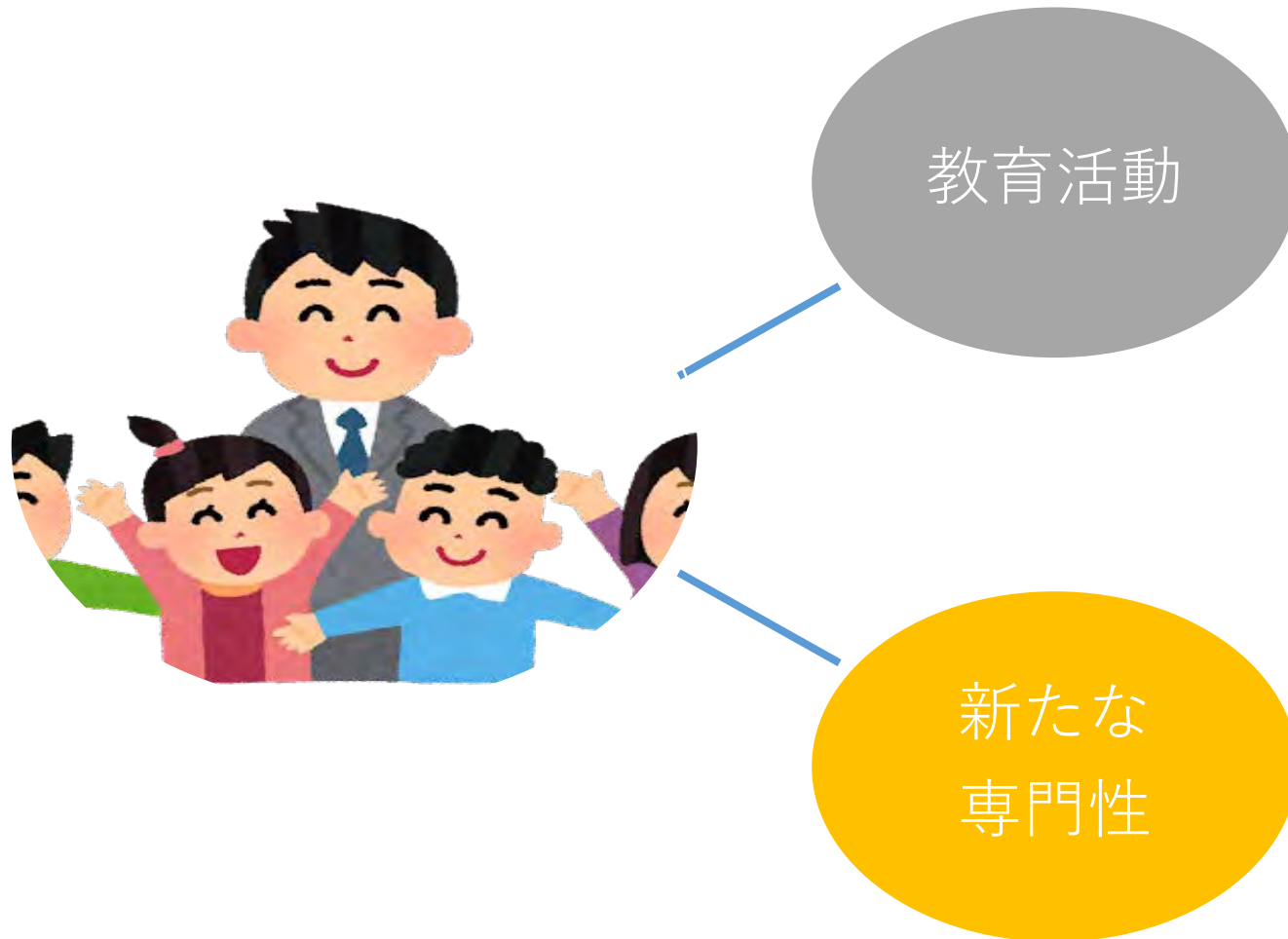
知的障害    肢体不自由    病弱・身体虚弱    弱視    難聴    自閉症・情緒障害

- 在籍児童生徒の増加    在籍40名以上の小中学校の増加
- 教育的ニーズ及び必要な支援の多様化・重複化

- IQ90以上の発達障害
- 身体障害者手帳1種1級
- 重度重複障害
  - 医療的ケア

学級運営や教育課程編成をする上で  
さらなる工夫

# 専門性の量的・質的な変化



教育活動

- 新学習指導要領に基づいた教育活動
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善と学習評価
- 障害種に応じた指導と自立活動
- 個別の教育支援計画の作成と活用
- 交流及び共同学習
- 諸帳簿の作成・管理

新たな  
専門性

- 就学・進学相談の仕組み、法的知識
- 医療機関や放課後等デイなどの福祉機関との連携、多職種連携
- 医療的ケアへの対応
- 保護者支援
- GIGA端末を活用した授業実践

# ライフステージに応じた研修（悉皆）

－子どもたちとともに学び続ける教員－

・採用1校目終了まで

・2校目異動から20年経験程度

・20年経験以上の教員、総括教諭、  
教頭、副校長

## ステージⅠ（ド♪）

土台となる資質・能力を身に付ける

初任者

2年目教員

3年目教員

## ステージⅡ（ミ♪）

みんなをつなぎ自らの専門性を高める

2校目異動者

中堅教諭等資質向上

15年経験者

## ステージⅢ（ソ♪）

組織と人を育てる力を高める

新任総括教諭

新任教頭

新任校長

# その職に応じた研修（必修）

## 特別支援学級

特別支援学級新担任者

特別支援学級  
新担任者 2 年目

## 通級指導教室

通級指導教室  
新担当者等

## 支援教育

コーディネーター

支援教育  
コーディネーター養成

# 希望研修・担当者会議

1. 希望研修（教員の希望に応じた研修）
  - （1）総合教育センター夏季希望研修（参集・対面型＋オンライン）
  - （2）特別支援学校夏季公開研修（県立・市立特別支援学校 参集・対面型）
2. 担当者等の会議（各校1名以上参加）
  - （1）児童支援コーディネーター連絡会議（小中高・特別支援、参集・対面型＋オンライン）
  - （2）児童生徒指導連絡会議（小中高・特別支援、参集・対面型＋オンライン）
  - （3）特別支援学級担当者会議（小中学校 各校1名以上、参集・対面型＋オンライン）
  - （4）特別支援学校担当者会議、同センター的機能担当者会議（参集・対面型）
  - （5）通級指導教室企画運営会議、同センター的機能担当者会議（参集・対面型）

# 3 専門性向上に向けた取組と成果

# 研修の目的とは

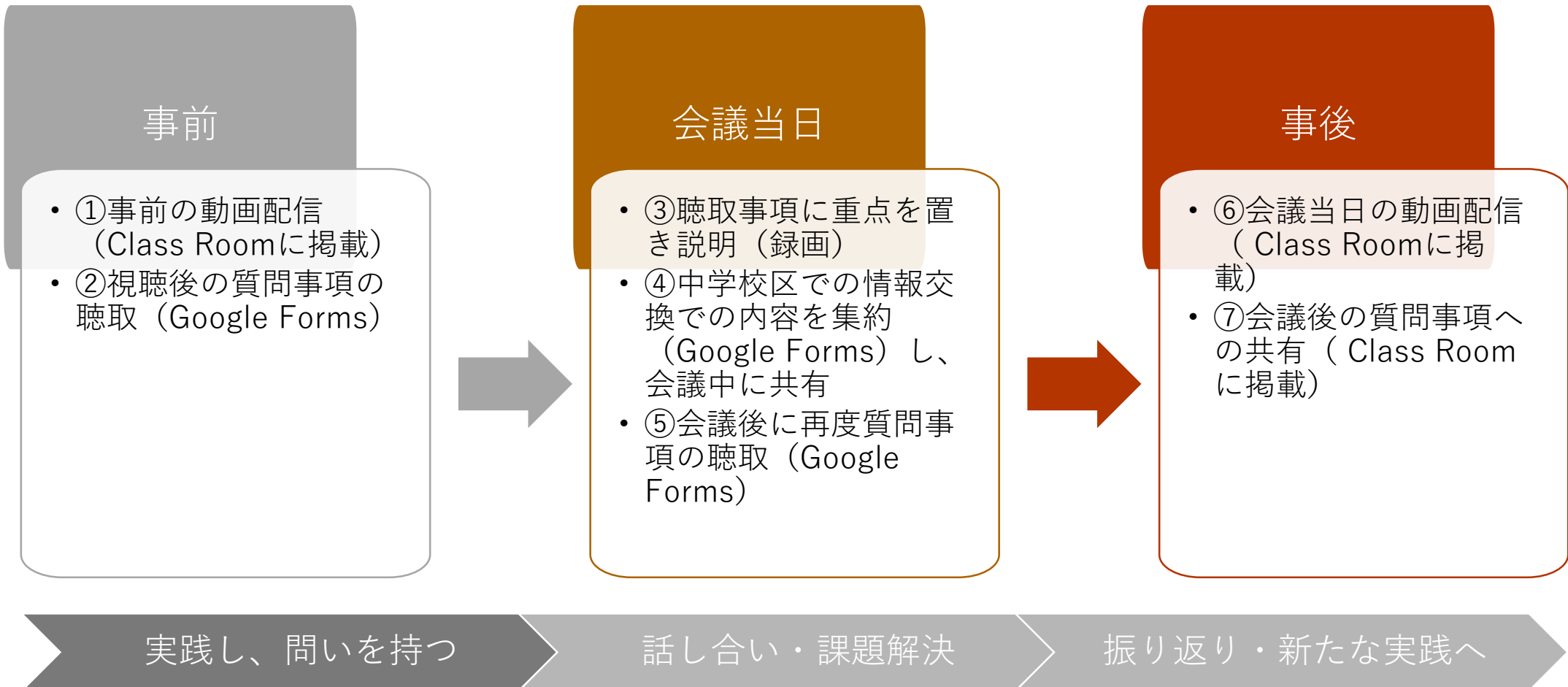
- よい研修とは？

受講者が研修で学んだことを学校に戻って実践し、研修の目的を達成すること

< 課題 >

- ✓ 参集・対面型の会議・研修では、事務局側の一方的な説明になることが多い
- ✓ 受講者のニーズに応えられない
- ✓ 全ての担当者に周知することが難しい
- 教師自身が日々の実践に「問い」を持つこと、振り返りの機会を持つこと
- 問題解決的な学習経験することは、子供の学びにおいてだけでなく、教員の資質・能力の向上を図る研修においても重要

# オンライン研修・会議の設定の工夫



# 取組の成果と課題

1. 参加者が会議前に「問い」を持ちやすくなった
2. OJTでの担当者間の対話が増えた
3. 事務局側が教師の疑問点を把握しやすい（今後の研修計画に反映）
4. 会議後の新たな「問い」を持つきっかけとなる（教師の主体性の伸長）
5. 話し合い場面でGoogle Formsを活用し、即時の意見集約と共有
6. 会議時間の短縮（2時間→1時間）と周知効果が高い
7. 参加者の在校時間の確保、往復移動時間・出張旅費の削減
8. Class Roomで動画の繰り返し視聴可能
9. 学校単位で担当者全員の参加が可能
10. Zoomのブレイクアウトルームで話し合いは、対面に較べ質が下がる(-)

# 4 今後の課題

# 川崎市教員育成指標について




# 川崎市教員育成指標に基づく研修体系

- 川崎市教員育成指標に基づきライフステージに応じた必修研修や希望研修を実施し、**教職員の指導力の向上**を図るとともに**学校を支えるミドルリーダーの育成**等に取り組んでいる。
- 「教員は学校で育つ」ことから、**教員同士の学び合い**を促進し、日常の授業研究等の活性化を図り**学校組織としての力を高める**ことも重要である。
- 校内での**学び合い（OJT）**に、**校外研修（Off-JT）**や**自己研鑽（SD）**を関連させながら、教員自身が主体的・自発的な学習者として学び続けることができるよう、育成指標を活用する。

川崎市の教員に求められる資質能力  
—川崎市教員育成指標—

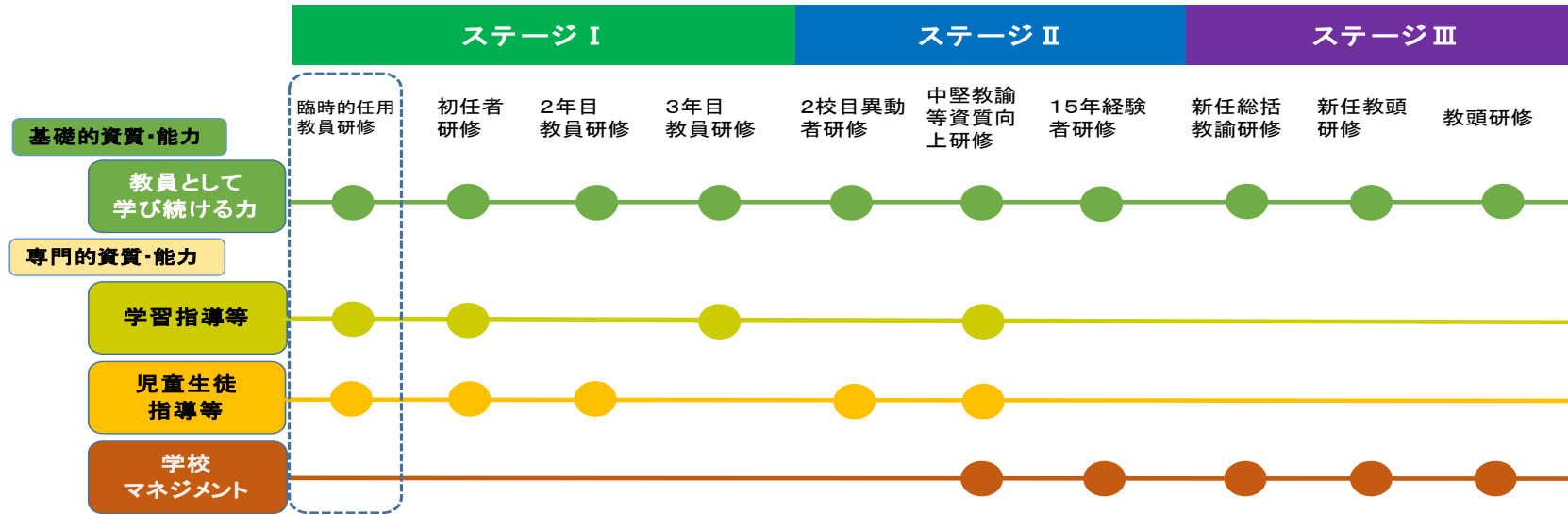
平成30年3月20日決定

川崎市教員育成指標は、川崎市の公立学校教員が、教員の職責、経験及び適性に応じて向上を図るべき教員としての資質能力を示したもので、それぞれの教員が、自ら目標を定め、自ら学び続けるための目安となるものです。

		ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ	
		主に、採用1枚目昇格時までの教員 	主に、2枚目昇格から20年経験程度の教員 	20年経験程度以上の教員、総務部長及び教頭・副校長 	
		それぞれのステージや職に応じたその他の必修研修や希望研修			
		○教員としての土台となる資質能力を身に付ける 教員としての基盤となる資質能力を身に付け、積極的に実践を積み重ね、授業力や子どもを育てる力を高める。	○みんなをつなぎ自ら専門性を高める リーダーとして、自らの実践をもとにベネチアと発芽をつなぎ、専門性を高めるとともに、自らもチームの一員として成長し続けます。	○組織と人を育てる力を高める 学校組織の活性化を図り、特色ある学校づくりのために、リーダーシップを発揮し、継続的な実践力を高める。	
教員としての 基礎的 資質能力	教員として学び続ける力	自らの教育活動を取り返り、教員として成長するために学び続ける	自らの教育活動を振り返りながら、子どもや社会の変化を見直し、両者とともに成長するために学び続ける	子どもや社会の変化を見直し、多職員職位として成長するために自ら学び続ける	
	人間性を高める続ける	教員としての使命感や情愛、子どもに対する責任感や深い愛情、適切な人間感覚、及び、社会人としての礼儀や健康、教育公務員としての忠実を誇り、それらを高める続ける			
	社会性を高める続ける	社会人として、社会の状況を把握し、適切な表現力・コミュニケーション能力を持ち、子どもや保護者・地域、関係者との良好な人間関係を構築し、協力的に職務を遂行する			
	自らを高める	健康増進と基本的な生活習慣の維持を行うとともに、成長や挑戦、及び、挑戦や提出期限等の遵守等、職務遂行のための業務管理及び自己管理を行う			
教員としての 専門的 資質能力	授業を計画・実施・改善する力	学習指導要領等を理解し、学習事項や子どもの実態を把握したうえで、教材を吟味し、身に付けさせたい資質能力を明確にした授業を計画・実施するとともに、日々の授業を振り返って改善する	身に付けさせたい資質能力を育成する適切な授業を計画・実施するとともに、校内外的な研究、研修での実践等に取り組み、自らの授業力を高めるとともに、その成果を共有する	教員育成に基き計画を構築し、授業力向上に向けて、校内研究会等を通じて、学校全体での授業改善を推進する	
		学習意欲を喚起する	子どもの学習状況や実態に応じて教材や指導方法を工夫し、楽しい、わかることにつながる授業を実施する	学習意欲を喚起し、子どもが主体的に学ぶことのできる授業を行うとともに、その成果を校内外的研究等で見直し、両者等と協力的に授業改善を図る	子どもが主体的に学ぶ授業の実践に向けて、適切な指導計画や取組を行い、学校全体の授業力向上を推進する
		わかる授業を実践する	子どもの学習状況や実態に応じて、目標の実現に向けた授業を工夫し、わかる喜びを感じさせることのできる授業を実施する	わかる授業の実現に向けた教材研究・開発等を行うとともに、その成果を校内外的研究等で見直し、両者等と協力的に授業改善を図る	わかる授業の実現に向けた、適切な指導計画や取組を行い、学校全体の授業力向上を推進する
		適切に評価して指導に生かす	子どもの学習状況を適切に把握し、学習指導・評価を行うとともに、次の指導に生かす	子どもの学習状況を踏まえた適切な指導・評価を行うとともに、協力的に指導と評価の改善を進める	学校全体で継続的に指導と評価の改善を推進する
	子どもを理解して育てる力	子どもを全人として育てる	子どもの発達段階とその特徴を踏まえ、一人ひとりの個性を把握してチームの一員としての忠実をもって子どもに向き合う	子どもの発達段階とその特徴を踏まえ、一人ひとりの個性を把握するとともに、教員間で共通理解を図り、チームで対応することの大切さを意識して、子どもに向き合う	子ども一人ひとりの個性を把握し、最適な教育活動が展開できるよう、教員への助言や子ども理解の充実の工夫を行う
		よりよい人間関係を育てる	学習指導等を通して、子どもとの信頼関係や子ども同士のよりよい人間関係を育てる	学校や学年の目標を踏まえ、学習・学年経営を軸にして、両者と連携して、子ども同士のよりよい人間関係を構築する	学校教育目標等を踏まえ、教員や子どもの状況把握し、学習や学年への支障や課題を認め、子ども同士のよりよい人間関係を構築する
		個に応じた指導を行う	一人ひとりのニーズに応じた指導について学び、実践する	一人ひとりのニーズに応じた指導について、情報共有しながら工夫を蓄積し、実践する	一人ひとりのニーズに応じた指導について、指導体制を構築し、継続的に対応・実践する
	社会創出に向けて支援する	子どもの社会的意欲に向けて必要な能力や態度を培うために、学年等で協力しあって取組を進める	子どもの社会的意欲に向けた効果的な方法を教育活動に適切に位置付け、学年等で意図的、計画的に推進する	子どもの社会的意欲に向けた取組を、教育課程に適切に位置付け、学校全体で計画的、継続的に推進する	
	学校を牽引する力	役割と責任を定めて取り進む力	学年経営や教育行事等の必要箇所について担い、学校組織の一員としての忠実を誇り、その役割を果たす	組織での役割や責任を定めて、学年経営への助言や取組方針の決定等に取り組む。よりよい教育活動の実現に貢献する	教員が役割に応じて役割を担い、責任を高めながら、教育活動が認められるよう、前向きな取組を推進する
		信頼される学校をつくる	組織で求められる役割を担って行動するとともに、子どもの安全安心を常に配慮し、危機や緊急に対する迅速な対応、連携、実践を行う	チームとして子どもの成長を促し学校安全等の多様な課題に対応するとともに、危機の予測、未然防止及び早期発見、早期対応に取り組む	学校全体で教員間の人材育成に継続的に取り組む。組織を改善しつつ、また、学校安全に対する取組を導くも、関係機関と連携しながら、学校の危機管理体制を構築する
		特色ある学校をつくる	学校教育目標や学校経営方針等を踏まえて行動するとともに、保護者・地域等と積極的に関わり、連携・協働して魅力ある教育活動を行う	学校教育目標や学校経営方針等を踏まえて、その実践に向けた教育活動を工夫改善するとともに、保護者・地域等と連携・協働して魅力ある学校づくりに取り組む	学校教育目標や学校経営方針等に基づいて教育課程を構築するとともに、保護者・地域等と共有し、連携・協働のもと、社会に開かれた特色ある学校づくりを推進する

※基礎的、基礎的については、教員として身に付けさせたい資質能力として関連のある指標について適用し、専門的な職務内容の指標については今後決定します。

# ライフステージに応じた必修研修の体系

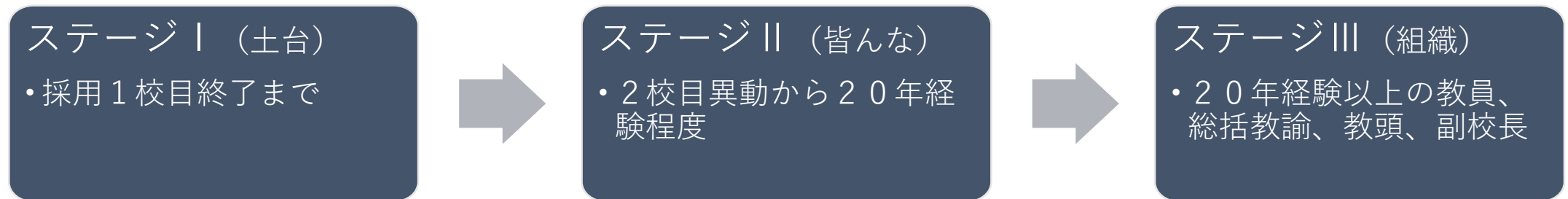


●印は、勤務校外研修で特に重点を置いている資質・能力。その他の資質・能力についても校内研修や希望研修等で身に付けるようにする

- 勤務校外における研修では、特に重点を置いている資質・能力を設定している。
- 各教職員は、その他の資質・能力についても、各学校のOJT（校内研修等）で計画的に身に付けていく。
- また、自らの目標をもって主体的に学ぶことができるよう、希望研修についても重点を置いている資質・能力を示しているため、各自の目標に応じた受講の選択が可能である。

# 特別支援教育や情報活用能力等を位置づけ

- 教員としての基本的・専門的資質能力に加筆
- 川崎市教員育成指標に基づく研修体系の見直し



- 特別支援学級の教育課程編成や学級運営に管理職が積極的に参画
- それに伴い、特別支援教育センター所管の研修内容や方法も検討
- 研修体系全体で、全ての教師の「特別支援教育」の専門性の向上を図る

# 「OFF-JT」から「OJT」主体の研修体系へ

- 共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進
  - 一部の専門性の高い教師から「全ての教師へ」
- オンライン研修や会議の取組は、専門性向上のための1つの手段
  - ✓参集・対面型とオンラインのそれぞれの良さ
  - ✓事前・事後の動画配信
  - ✓Google Formsの活用（事前・事後、当日の意見集約）
  - ✓参加者のOut-putをどう増やしていくか
- 教師が教室で主体的に「問いを持つ」には

特別支援教育センターの会議・研修を学校に近づけていく必要性

# ご清聴ありがとうございました

<参考文献等>

- ・「特別支援教育を担う教師の養成、採用、研修等に係る方策について（通知）」（3文科初第2668号）令和4年3月31日
- ・「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について（通知）」（4文科初第375号）令和4年4月27日
- ・東洋館出版社「月刊 特別支援教育研究 2022年 9月号」

# 和歌山県教育センター学びの丘の紹介

Wakayama Prefectural Educational Center Manabi-no-oka



Image © 2012 TerraMetrics  
© 2012 Cnes/Spot Image  
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO

## 和歌山県立情報交流センターBig・U (2階) 和歌山県教育センター学びの丘 Wakayama Prefectural Educational Center Manabi-no-oka



自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会の取組  
－授業づくり3つのポイントの提案を通して－

和歌山県教育センター学びの丘  
研究開発課 草羽 信幸



## 発表内容

自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会の取組  
－授業づくり3つのポイントの提案を通して－

1 はじめに

2 研究の目的

3 研究の方法及び内容

4 考察

5 まとめ

# 発表内容

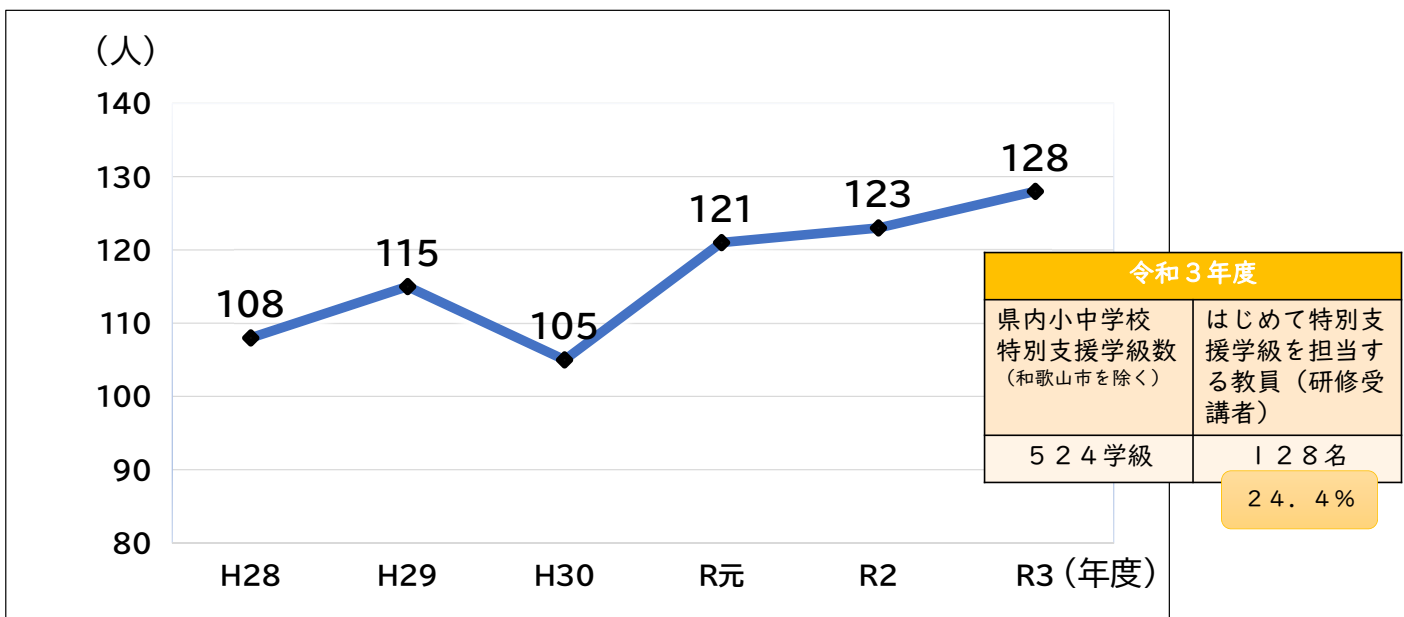
## 自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会の取組 －授業づくり3つのポイントの提案を通して－

### 1 はじめに

- (1) 和歌山県の特別支援学級の現状
- (2) 自閉症・情緒障害特別支援学級の課題

#### 1 はじめに

#### (1) 和歌山県の特別支援学級の現状



初めて特別支援学級を担当する教員対象の研修受講者数

# 令和3年度特別支援学級担当教員の 現状及びニーズに関する アンケート調査の結果から

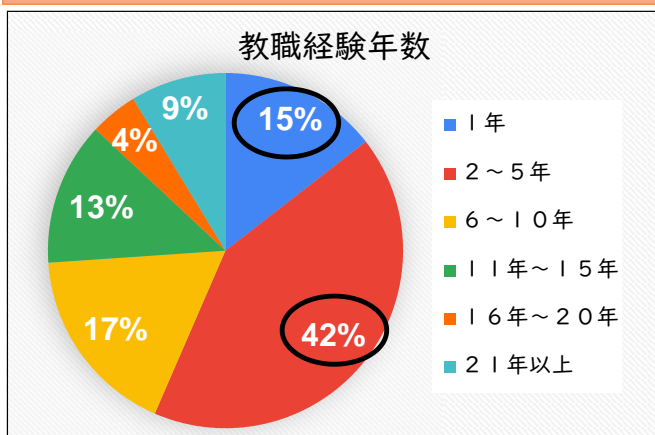


標記アンケート調査は、当センターが実施する特別支援学級担当教員研修の受講者（初めて特別支援学級を担当する教員）及び田辺市特別支援教育研究会会員を対象に実施しました。

特別支援学級担当教員研修受講者（87人回答）  
田辺市特別支援教育研究会会員（30人回答）

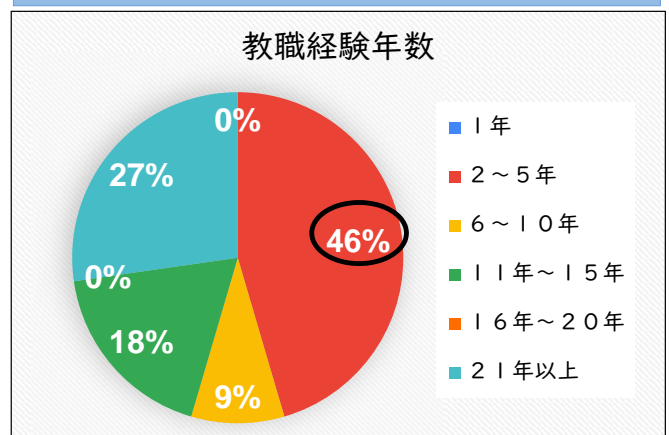
その回答結果から、特に小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級の現状や課題、ニーズ等に関する内容を取り上げています。

特学担（小学校）（n=69）



- ・ 1年が15%  
（初めて教職について支援学級を担当）
- ・ 1年～5年が57%  
（教職経験の浅い教員が5割以上）

田辺市特教研（小学校部会）（n=22）



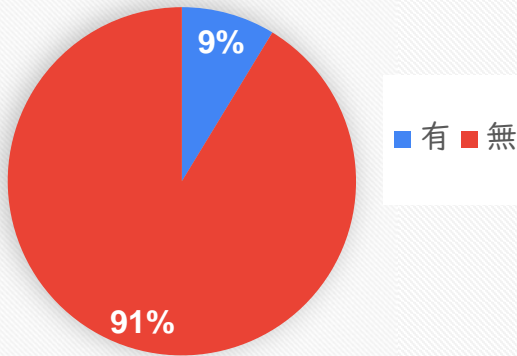
- ・ 2年～5年が46%  
（教職経験の浅い教員が5割近く）

## ◆基盤となる教科の指導力（授業力）

# (1) 和歌山県の特別支援学級の現状

特学担 (小学校) (n=69)

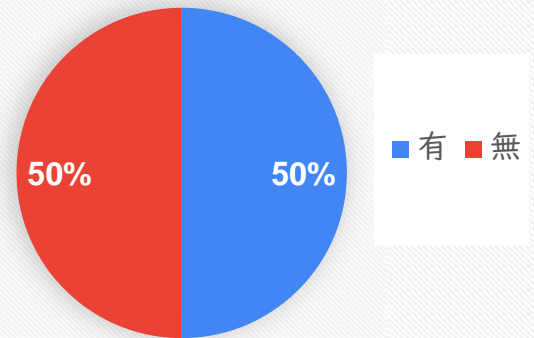
特別支援学校教諭免許の保有率



・特別支援学校教諭免許の保有率9%

田辺市特教研 (小学校部会) (n=22)

特別支援学校教諭免許の保有率



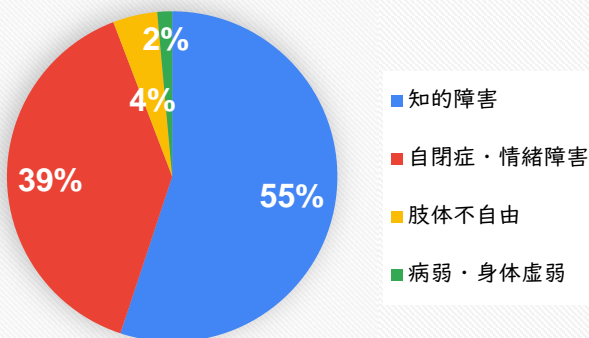
・特別支援学校教諭免許の保有率50%

## ◆特別支援教育に係る基本的な専門性

# (1) 和歌山県の特別支援学級の現状

特学担 (小学校) (n=69)

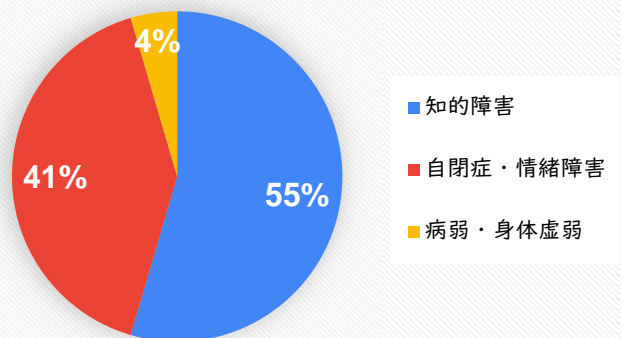
担当する学級の障害種



- ・知的障害が55%
- ・自閉症・情緒障害特別支援学級が39%

田辺市特教研 (小学校部会) (n=22)

担当する学級の障害種

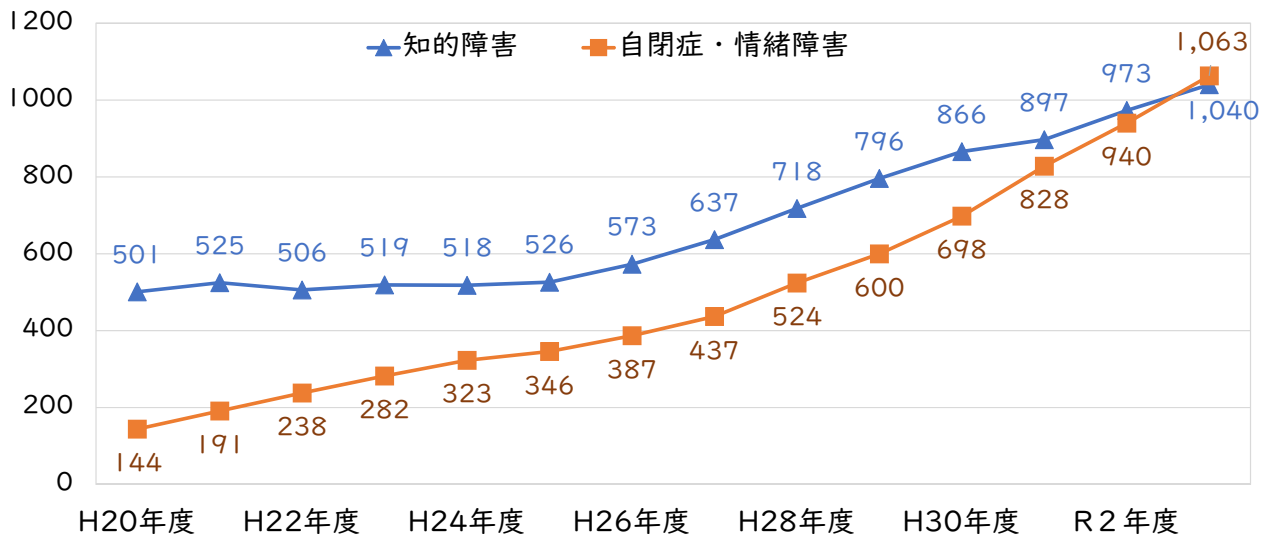


- ・知的障害が55%
- ・自閉症・情緒障害特別支援学級が41%

## ◆自閉症・情緒障害特別支援学級数が増加

## (1) 和歌山県の特別支援学級の現状

県内小学校特別支援学級 知的障害学級・自閉症情緒障害学級児童数の推移



2021年11月和歌山県教育委員会県立学校教育課特別支援教室

◆自閉症・情緒障害特別支援学級数及び在籍児童数が増加

## (1) 和歌山県の特別支援学級の現状

### 特学担（小学校）（n=65）

※n=65は知的学級（38）＋自・情緒障害学級（27）

#### 知的学級の自閉症の割合

29.9%

■（自閉症）

#### 自・情緒障害学級の自閉症の割合

71%

■（自閉症）

- ・知的学級では30%の自閉症のある児童が在籍
- ・自・情緒障害学級では71%が自閉症のある児童
- ・知的学級及び自・情緒障害学級併せて、約5割が自閉症のある児童

### 田辺市特教研（小学校部会）（n=21）

※n=21は知的学級（12）＋自・情緒障害学級（9）

#### 知的学級の自閉症の割合

67.5%

■（自閉症）

#### 自・情緒障害学級の自閉症の割合

85.3%

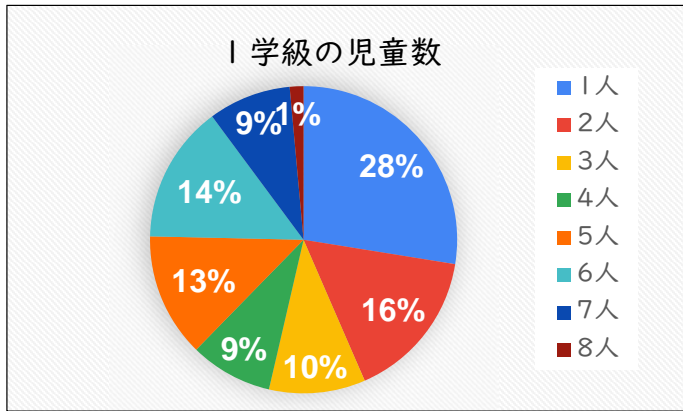
■（自閉症）

- ・知的学級で67%の自閉症のある児童が在籍
- ・自・情緒学級では85%が自閉症のある児童
- ・知的学級及び自・情緒障害学級併せて、約8割が自閉症のある児童

◆自閉症のある児童に配慮した指導や支援の工夫等が必要

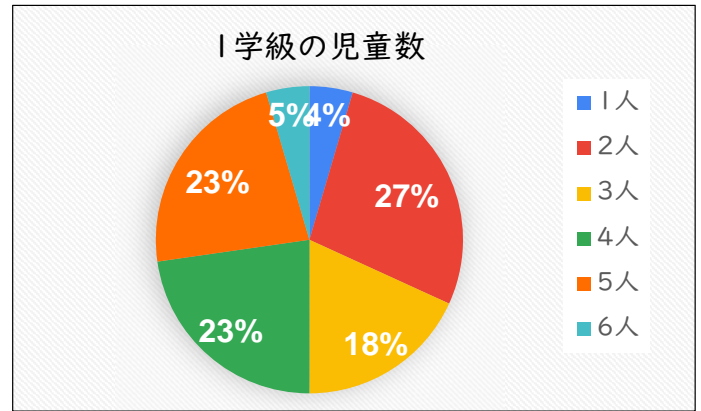
## (1) 和歌山県の特別支援学級の現状

特学担（小学校）（n=69）



- ・ 1学級の児童数は、1人が28%で最も多い
- ・ 2人～7人が在籍する学級の割合については、それほど大きな差はない

田辺市特教研（小学校部会）（n=22）

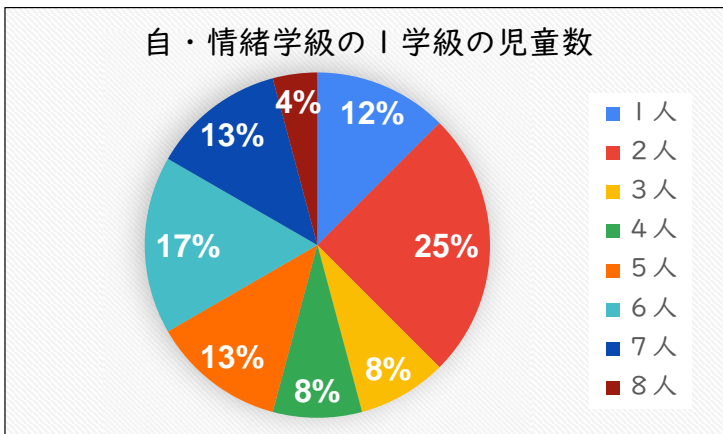


- ・ 2人～5人が在籍する学級の割合については、それほど大きな差はない

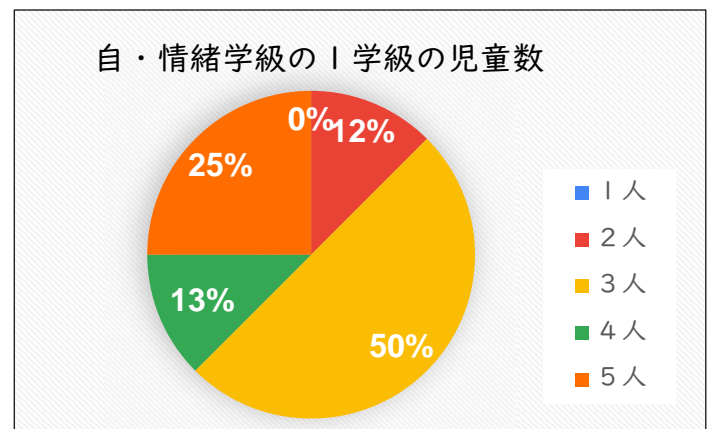
◆特別支援学級には、複数の児童が在籍している場合が多い

## (2) 自閉症・情緒障害特別支援学級の課題

特学担 自・情緒学級（小学校）  
（n=27）



田辺市特教研 自・情緒学級（小学校部会）  
（n=9）



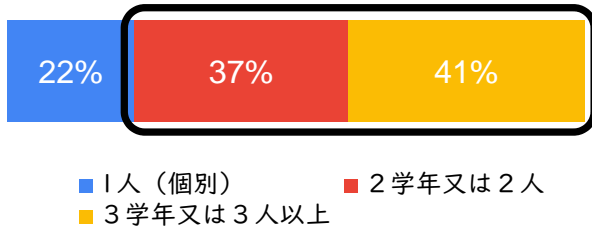
- ・ 在籍する児童数が3人以上が88%

◆自閉症・情緒障害特別支援学級には、3名以上の児童が在籍している場合が多い

## (2) 自閉症・情緒障害特別支援学級の課題

特学担 自・情緒学級 (小学校)  
(n=27)

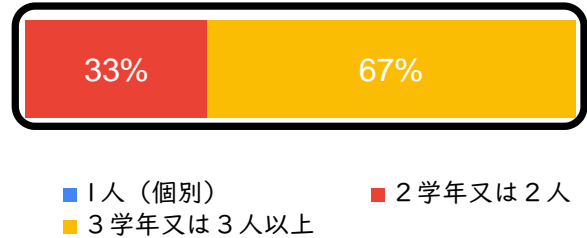
自・情緒学級の算数科授業時の児童数



・ 3学年又は3人以上を算数の授業で同時に指導している割合が41%

田辺市特教研 自・情緒学級 (小学校部会)  
(n=9)

自・情緒学級の算数科授業時の児童数



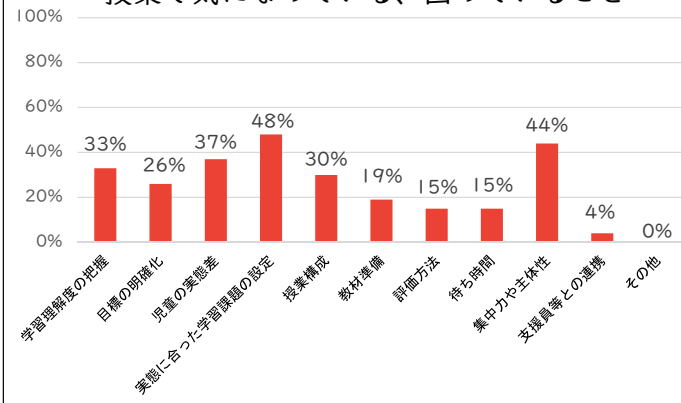
・ 3学年又は3人以上を算数の授業で同時に指導している割合が67%  
(他との組合せも有)

◆算数科において、複数の児童を同時に指導する力量が必要

## (2) 自閉症・情緒障害特別支援学級の課題

特学担 自・情緒学級 (小学校)  
(n=27)

授業で気になっている、困っていること

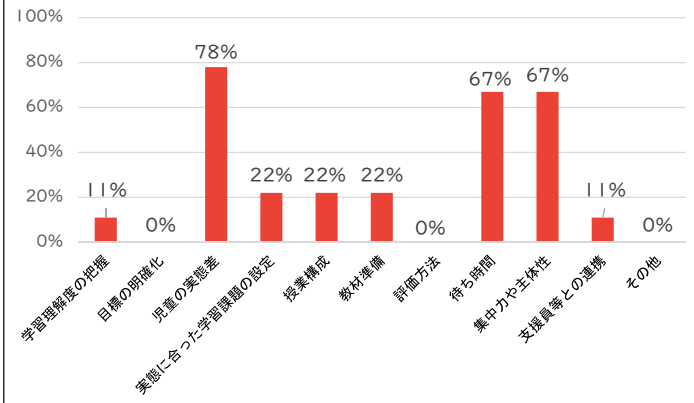


・ 実態に合った学習課題の設定、集中力や主体性、児童の実態差等が挙げられているが、どの項目も平均的

◆児童の実態差 (学年差)、複数学年 (複数児童) の指導で生じる待ち時間、集中力や主体性 (障害特性) への対応が課題

田辺市特教研 自・情緒学級 (小学校部会)  
(n=9)

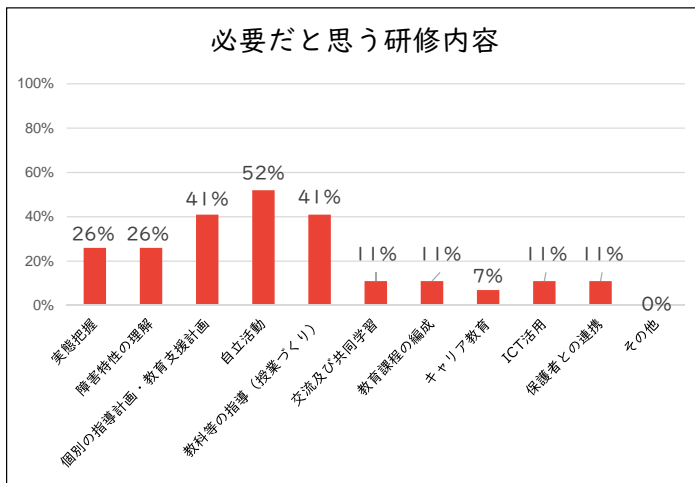
授業で気になっている、困っていること



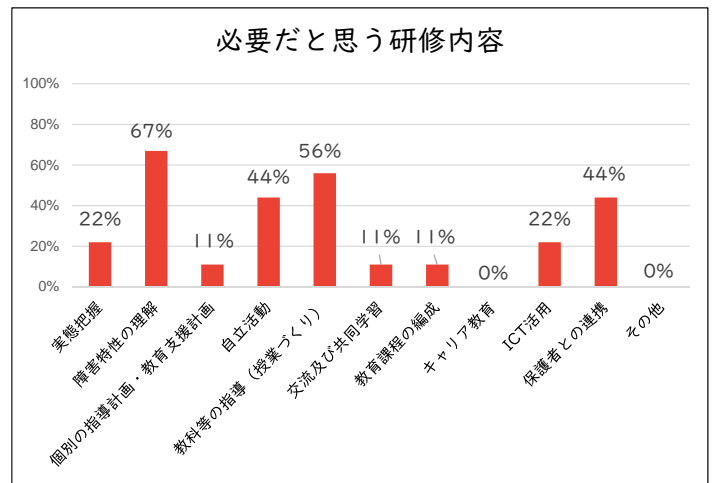
・ 児童の実態差、待ち時間、集中力や主体性の項目が他項目に比較して非常に高い

## (2) 自閉症・情緒障害特別支援学級の課題

特学担 自・情緒学級（小学校）  
(n=27)



田辺市特教研 自・情緒学級（小学校部会）  
(n=9)



- 田辺市特教研小学校部会の自閉症・情緒障害特別支援学級の担当教員が必要だと思う研修内容  
①障害（自閉症）特性の理解 ②教科等の指導（授業づくり） ③自立活動 ④保護者との連携

◆障害特性の理解、授業づくりに課題

## 発表内容

自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会の取組  
－授業づくり3つのポイントの提案を通して－

## 2 研究の目的

## 2 研究の目的

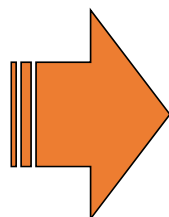
アンケート結果から見えてきたこと

教科学習の指導力を高めていく

複数の児童を同時に指導するスキルを身に付けていくこと

児童の集中力や主体性への支援ができるようになる

自閉症のある児童の特性を理解した上での授業づくり、指導の工夫ができるようになる



▶ 田辺市特別支援教育研究会と研究会を構成する。

▶ 授業づくりのポイントを具体的に提案する。

▶ 授業づくりのポイントの有効性及び汎用性について、小学校算数科の授業実践を通して検討する。

特別支援学級担当教員の専門性向上を図る

## 発表内容

自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会の取組  
－授業づくり3つのポイントの提案を通して－

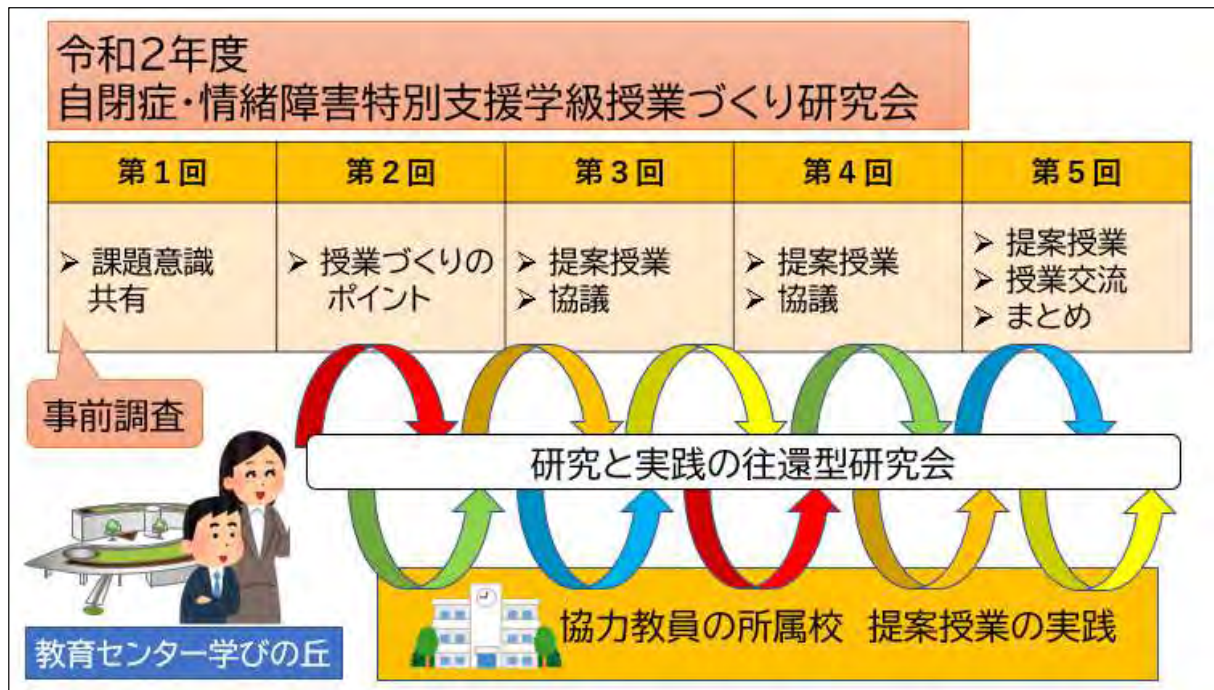
### 3 研究の方法及び内容

(1) 和歌山県田辺市特別支援教育研究会と連携した共同研究の実施

(2) 授業づくり3つのポイントの提案

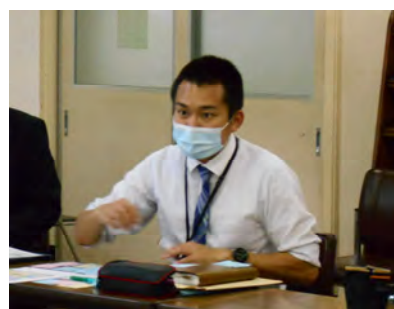
### 3 研究の方法及び内容

#### (1) 和歌山県田辺市特別支援教育研究会と連携した共同研究の実施



### 3 研究の方法及び内容

#### (1) 和歌山県田辺市特別支援教育研究会と連携した共同研究の実施



提案授業後の協議の様子



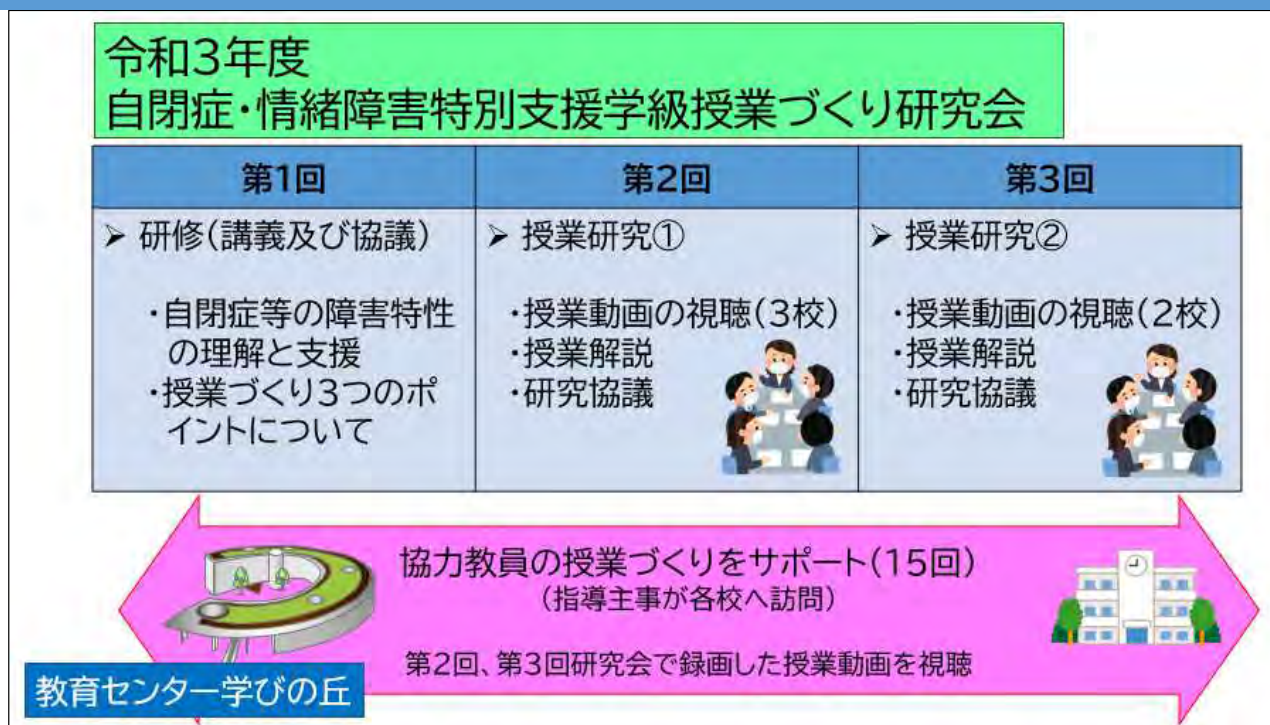
算数科の授業づくり演習の様子  
(1) 教科書の構造  
(2) 授業づくりの4つのステップ



授業交流の様子  
(授業映像をお互いに参観)

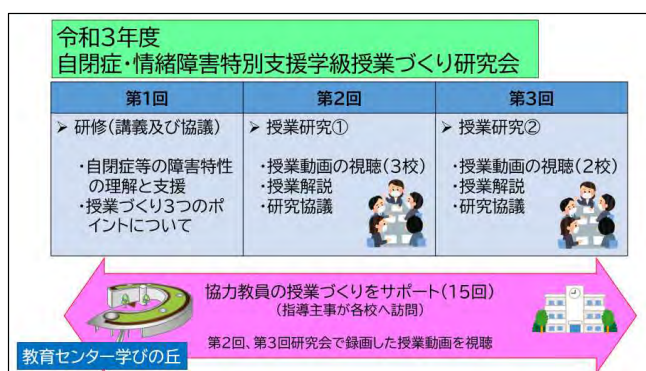
### 3 研究の方法及び内容

## (1) 和歌山県田辺市特別支援教育研究会と連携した共同研究の実施



### 3 研究の方法及び内容

## (1) 和歌山県田辺市特別支援教育研究会と連携した共同研究の実施



第1回研究会の様子



協議の様子

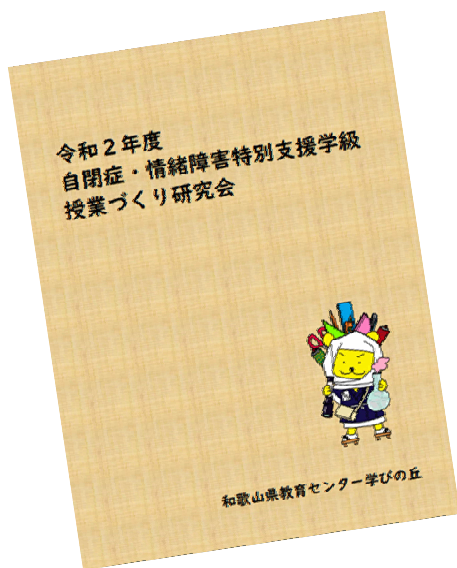


授業の様子を撮影し、研究会で共有しました。



協議での成果物

### 3 研究の方法及び内容 (2) 授業づくり3つのポイントの提案



#### 自閉症・情緒障害特別支援学級における 授業づくり3つのポイントの提案



自閉症・情緒障害特別支援学級で、知的障害がない場合、基本的には対象となる児童生徒の当該学年の各教科等の指導を行うことになります。

児童生徒の学年が2学年以上になると、複数学年の内容を同時に指導する必要があり、その際には様々な工夫等を行い、効果的な授業づくりをすることが大切です。

そこで、教育センター学びの丘が提案する自閉症・情緒障害特別支援学級における授業づくり3つのポイントを紹介します。

教育センター学びの丘が  
授業づくり3つのポイントを提案します

自立課題学習の設定

授業構成表の活用

学習環境の工夫

### 3 研究の方法及び内容 (2) 授業づくり3つのポイントの提案

#### 自立課題学習の設定

一人で  
頑張る時間！



つまづくことなく、自分で学習を進めることのできる、児童生徒の実態に合った課題を用意します。

ポイント

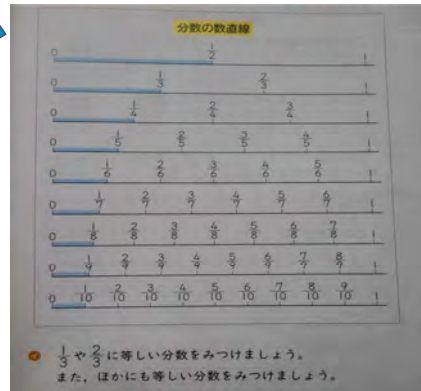
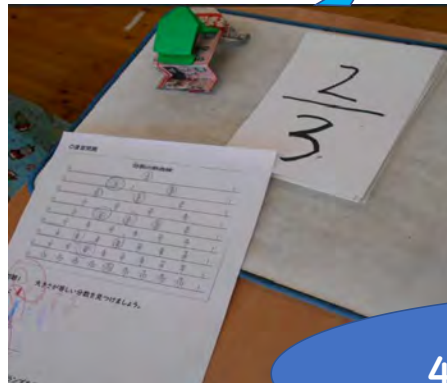


◆ 自立課題学習は、「どこで」「何を」「どれだけ行うのか」「終わったら何をするのか」を視覚的に提示し、環境整備をすることで、児童生徒がそれを手がかりにして、自ら主体的に取り組むことを目的とする学習です。

◆ 一定時間、一人で学習に取り組む学習態勢を身に付けることは、障害のある児童生徒の自立活動の目標としても考えることができます。

### 3 研究の方法及び内容 (2) 授業づくり3つのポイントの提案

#### 自立課題学習の設定



5年生  
4年生の教科書を活用し、  
等しい分数を書き出す。

ポイント

- ◎児童生徒が確実に自力解決できる難易度や量となるよう配慮しましょう。
- ◎教科書を効果的に活用し、本時の学習に関連する内容を取り上げてみましょう。

### 3 研究の方法及び内容 (2) 授業づくり3つのポイントの提案

#### 自立課題学習の設定



教科書会社のウェブ  
ページから動画を見る。

教材を準備する活動や  
プリントを綴じる活動に  
取り組む。

ポイント

啓林館ウェブページ わくわく算数スマートレクチャーにアクセス

①

② <https://wakuwamath.net/>

③

動画はすべて見ると約8分です。  
動画開始6分ぐらいから関係図の  
かき方が始まります。  
かき方を復習して、自分でかかせた  
いです。

- ◎児童生徒が確実に自力解決できる難易度や量となるよう配慮しましょう。
- ◎教科書を効果的に活用し、本時の学習に関連する内容を取り上げてみましょう。

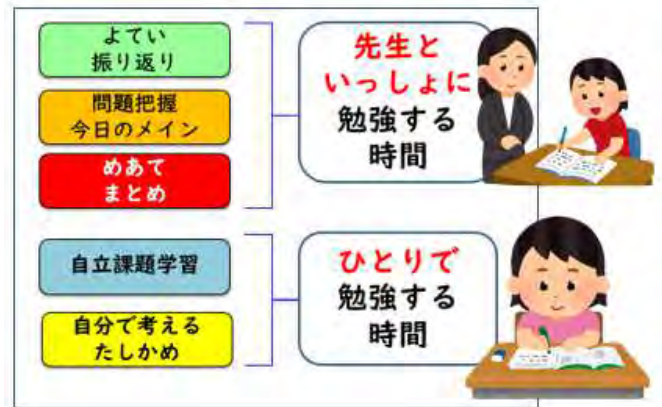
### 3 研究の方法及び内容 (2) 授業づくり3つのポイントの提案

#### 授業構成表の活用

ポイント



授業の流れと教師の動きがわかる



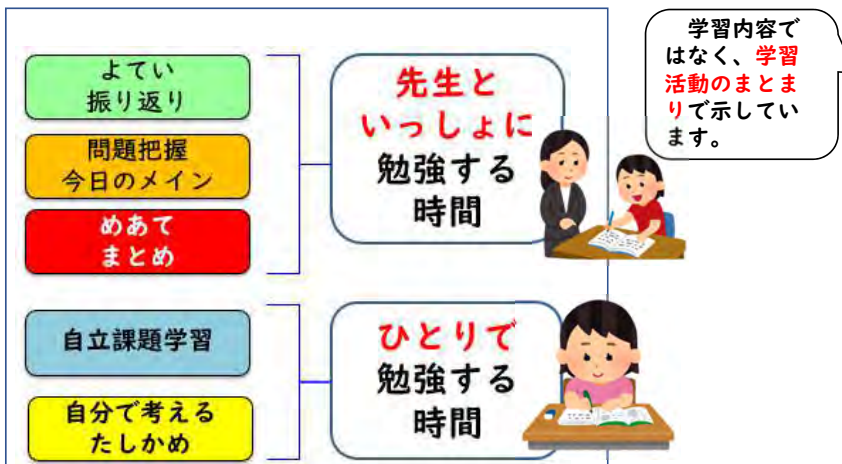
◆ 授業構成表は、複数学年（異なる単元）の指導を行う場合に、複式授業のように直接指導、間接指導等の場面が分かるように、活動をユニットとして示すものです。

◆ 教師が自分の動きを確認すると共に、児童生徒にも提示することで見通しをもって取り組み、意欲が向上することを目的とします。

### 3 研究の方法及び内容 (2) 授業づくり3つのポイントの提案

#### 授業構成表の活用

3つの学年が在籍する  
特別支援学級の授業構成表の例



学 年	1年生	3年生	5年生
単元名	大きい かず	分数	平均とその利用
本時のねらい	点取りゲームの得点を比べることを通して、100までの数の大小について理解する。	1mを単位にして測ったときの余りの長さの表し方を考えることを通して、100までの数の大小について理解する。	生活場面での量をならして考えることを通して、単元の課題をつかむ。
本時のゴール	上の位の数から比べて2位数の大小比較し、数の大小を判断している。	1mを基準にして、端数部分の長さの表し方を考えようとしている。	数量の違いをならす数理的な処理の仕方を考えようとしている。

時間	1年生	3年生	5年生
13:40	よてい	よてい	よてい
13:45	問題把握	自立課題学習	自立課題学習
13:50	めあて	問題把握	問題把握
13:55	めあて	めあて	めあて
14:00	自立課題学習	問題把握	めあて
14:05	今日のメイン	めあて	自分で考える
14:10	今日のメイン	自分で考える	自分で考える
14:15	まとめ	今日のメイン	自分で考える
14:20	まとめ	今日のメイン	今日のメイン
14:25	振り返り	振り返り	振り返り

### 3 研究の方法及び内容 (2) 授業づくり3つのポイントの提案

#### 学習環境の工夫

物理的  
構造化

時間的  
構造化

活動の  
構造化

視覚化

ポイント



自閉症のある児童生徒は、環境による影響を受けやすいです。環境設定が重要です。

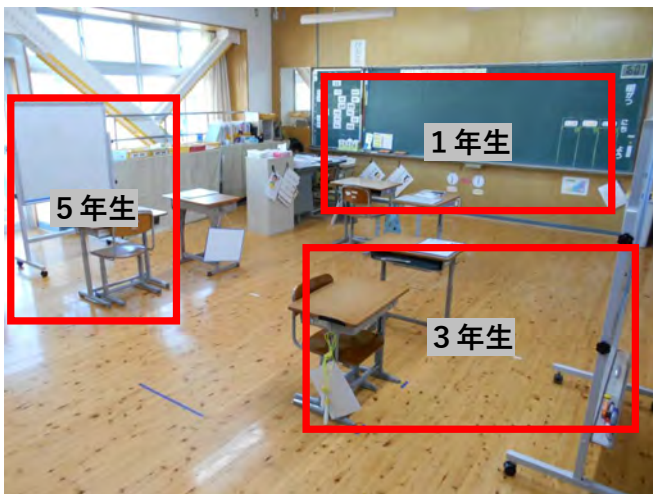
◆自閉症のある児童生徒の特性に配慮した学習環境の一つとして、構造化の考え方が取り入れられていることが多くあります。構造化には、物理的構造化、時間的構造化（スケジュール）、視覚化、ルーティン化等があります。

◎自立課題学習の場面で構造化を行い、支援の在り方が、人的支援から物理的支援へと移行しても、児童生徒が自立して取り組む学習態勢を身に付けることが大切です。学校にあるホワイトボードや机、棚等を上手く利用しましょう。

◎教師も環境要因の一つであると考え、教師の動きや指示、言葉掛けが多くなっていないか、確認しましょう。

### 3 研究の方法及び内容 (2) 授業づくり3つのポイントの提案

#### 学習環境の工夫



3つの学年が在籍する  
特別支援学級の教室配置

あさのじゅんび	
1	かばんをつくえにおく
2	れんらくノートをだす
3	タオルをかける
4	かなりのしごと ( )をする
5	おわったことを せんせいこしらせる

何をすればよいか  
わかる工夫



所有者がわかる工夫  
「○○さんのもの」



プリント、ファイル置場

### 3 研究の方法及び内容 (2) 授業づくり3つのポイントの提案

#### 自立課題学習の設定



#### 授業構成表の活用



#### 学習環境の工夫

学年	1年生	3年生	5年生
単元名	大きい かず	分数	平均とその利用
単元のねらい	比較ゲームのルールを自分で考え、10までの数の大小について理解する。	1桁を単位として10までの数のわりあいのあはらしる考えをこころで通して、単元の課題をつかむ。	生活場面や算を交わらして考えをこころで通して、単元の課題をつかむ。
単元のゴール	上の位の数から比べて2位の数から比較し、数の大小を理解している。	1桁を基準にして、単位数や十の位の数も通して考えようとしている。	数値内訳いならず数値の位の種類はたず考えようとしている。

時間	1年生	3年生	5年生
13:40	よてい	よてい	よてい
13:45	問題把握	自立学習	自立学習
13:50	めあて	自立学習	問題把握
13:55	自立学習	問題把握	めあて
14:00	今日のメイン	めあて	自分で考える
14:05	まとめ	自分てみる	
14:10	まとめ	今日のメイン	
14:15	まとめ	今日のメイン	今日のメイン
14:20	振り返り	振り返り	振り返り
14:25	振り返り	振り返り	振り返り

## 発表内容

自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会の取組  
 -授業づくり3つのポイントの提案を通して-

## 4 考察

## 4 考察

### 授業づくり3つのポイントの提案

#### 自立課題学習の設定

1コマの中での活動量が増えた（児童）

一人で学習する時間は、習得した力を発揮し、主体的に学習する力を高めていく時間である

自分でできる自信がつく（児童）

児童の得意なことを生かす視点が生まれた

#### 授業構成表の活用

見通しがもてる安心して学習できる（児童）

自閉症のある児童の視点から、授業構成表を工夫するきっかけ

#### 学習環境の工夫

どこで何をすることが分かる集中して学習できる（児童）

「単なる個別指導では十分でない。個別的に整えられた環境設定が必要である」

## 発表内容

自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会の取組  
－授業づくり3つのポイントの提案を通して－

## 5 まとめ

## 5 まとめ

### 協力教員の感想等

授業の取り組み方がよく分かった。

どの児童にも実りのある45分の授業にするために自分自身の授業スキルを向上させたい。

4月よりも不安感が無くなり、子供たちと向き合えるようになった。

他の先生の実践を試してみたい。

授業を構成する上で、今一度児童の実態把握を図りたい。

研修を受ける前よりも安定して学習、クラス運営ができた。

悩んだ分だけ、授業がよりよく進んだ。充実感を見いだせた研修だった。

特別支援教育の発展のために、教育センターの指導主事はどうあるべきか、またどのような取組が必要か。

- ・一人一人の困り感に寄り添う取組。
- ・意欲や自信を育てる取組。
- ・育成する側の気持ちばかりではなく、育成される側の思いも大事。声やニーズを拾っていくこと。
- ・特別支援教育を主体的に学ぼうとする教員を増やしていくことが、特別支援教育の発展に繋がっていくと考える。指導主事として、現場の教員に寄り添うことを大事にしながら今後も活動をしていきたい。

## 5 まとめ

〒646-0011  
和歌山県田辺市  
新住町3353-9  
独立情報交流センター  
Big・U内

TEL (0739)26-3511 (代)  
FAX (0739)26-8520  
原簿電話 (各課室)

**2373725**  
since 2006.02.07

検索

研修受講者の皆さんへ・健康観察用紙  
研修日の休日を記録した「研修記録用紙」を必ず受付時に提出してください。  
研修の進捗における配慮事項について

きのくに教職員研修管理システム

警報発表等に伴う研修の取扱いについて

最新研修	コンテンツ
令和4年度第2期 実学の博士試験	令和4年度第2期 (2/16、17)
研究紀要	研究紀要
教育資料室	教育資料室
外国語教育	外国語教育
学校図書館	学校図書館
学びサプリ	学びサプリ
特別支援教育資料	特別支援教育資料
指定研究情報	指定研究情報
教育相談	教育相談

## 特別支援教育資料

資料

**NEW!**  
自閉症・情緒障害特別支援学級における授業づくり3つのポイント

クリックすると、資料を開覧することができます。 PDF

自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会の取組  
ー授業づくり3つのポイントの提案を通してー

和歌山県教育センター学びの丘  
研究開発課 草羽 信幸



# 自閉症・情緒障害特別支援学級における 授業づくり3つのポイント

自立課題学習の  
場面の設定

授業構成表の  
活用

学習環境の  
工夫

1. 自立課題学習の場面の設定について
2. 授業構成表の活用について
3. 学習環境の工夫について
4. 授業づくり3つのポイントによるチェックリスト

自閉症・情緒障害特別支援学級で知的障害がない場合、児童生徒の実態に応じて教科指導を行うことが前提ですが、基本的には対象となる児童生徒の当該学年の教科指導を行うこととなります。在籍する児童生徒の学年が2学年以上になると、複数学年の内容を同時に指導する必要があり、その際には様々な工夫等を行い、効果的な授業づくりをすることが大切です。

そこで、教育センター学びの丘が提案する自閉症・情緒障害特別支援学級における授業づくり3つのポイントと取組例を紹介します。また、この授業づくり3つのポイントによるチェックリストを日頃の授業の振り返り等に活用してください。

令和4年3月  
和歌山県教育センター 学びの丘



## 1. 自立課題学習の場面の設定



- 国語や算数等の教科指導では個々の実態に応じた指導が必要ですが、1人の児童生徒に関わっている間、他の児童生徒にとって待ち時間になっていないでしょうか。
- 複数の児童生徒に臨機応変に対応して指導していますが、各授業のめあてを達成する指導はできているでしょうか。
- 障害の特性に配慮しつつ、児童生徒が1人で学習に向かう力（学習態勢）を身に付けるためには、どのような指導方法が効果的でしょうか。



このような課題を解決するために、1つめのポイントとして『自立課題学習』の場面の設定を提案します。

自立課題学習は、「どこで」「何を」「どれだけ行うのか」「終わったら何をするのか」を視覚的に提示し、環境整備をすることで、児童生徒がそれらを手がかりにして、自ら主体的に取り組むことを目指した学習です。この自立課題学習の場面を1時間の授業中に児童生徒の実態や学習内容に応じて設定します。

一定時間、1人で学習に取り組む学習態勢を身に付けることは、障害のある児童生徒の自立活動の目標としても捉えることができます。

\*自立活動の内容（6区分27項目）(注1)から考えられる項目

- (例) 2 心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること
- 3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること
- 4 環境の把握 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

注1:特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）

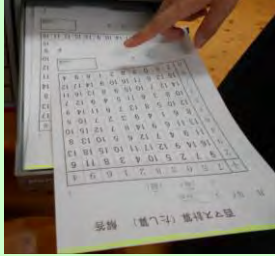
### ヒント



- ◎自立課題学習の課題の内容は、児童生徒が確実に自力解決できる難易度や量となるよう配慮しましょう。
- ◎可能であれば、課題として本時の学習に関連する内容を取り上げましょう。教科書を活用することが効果的です。
- ◎自立課題学習に取り組むための準備・後片付けや答え合わせも児童生徒の活動として取り入れましょう。何をするのか見通しをもつ手がかりとなります。
- ◎自立課題学習で達成できたことを視覚的に評価する工夫をしましょう。シール等を用いて頑張った様子が客観的に確認できることにより自己肯定感が高まります。

# 1. 自立課題学習の場面の設定

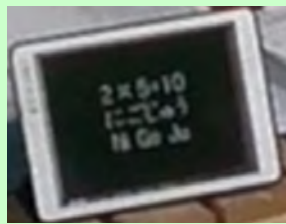
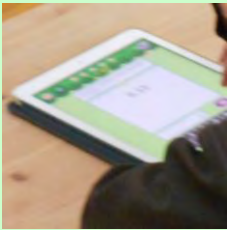
## 取組事例



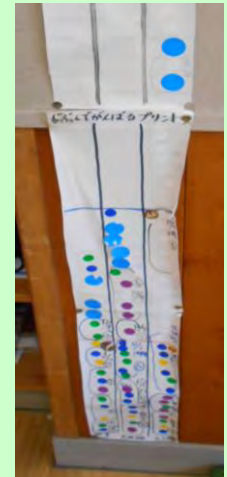
課題として、100マスや36マス計算を取り入れました。プリントや答えの置き場所を決めることで児童自ら準備をして取り組むことができました。児童がタイマーで時間を計り、記録するようにしました。



児童が1人で自立課題学習を進めることができるよう、ホワイトボードに、学習のルールや手順、ヒント等を視覚的に示しました。



タブレットやPCに興味関心がある、操作が得意な児童には自立課題学習の場面で取り入れ、意欲的に取り組む様子が見られました。



プリント学習に取り組んだ枚数分、シールをタワー型の台紙に貼りました。頑張りを高さで確認でき、教室に来た他の先生からも褒めてもらう機会がありました。



自立課題学習では、個別学習プリントの答え合わせも児童が行い、自己評価をできるようにしました。

予定の確認⇒教材の準備⇒学習⇒答え合わせ⇒自己評価⇒他者評価⇒片付け、と見通しがもてるようにルーティン化しました。



児童が自立課題学習に取り組んでいる場面で、別の児童に直接指導を行います。本時のめあてを達成し、付けたい力が身に付くように通常の学級の授業形態を意識し、板書等も配慮しました。





## 2. 授業構成表の活用

- 複数学年の児童生徒に指導を行う時に、授業の流れをどのように構成するとよいのでしょうか。
- 児童生徒に学習の見通しをもたせることができるように、授業の流れをどう知らせたらいいのでしょうか。
- 1時間の授業で、「自分1人で学習する時間」「先生と一緒に学習する時間」「先生を呼んでもいい時間」等を明確にし、児童生徒に分かりやすく指示できているのでしょうか。



このような課題を解決するために、2つめのポイントとして『授業構成表』の活用を提案します。

授業構成表は、複数学年（異なる単元）の指導を行う場合に、複式授業のように直接指導や間接指導、自立課題学習等の場面が分かるように、活動をユニットとして示すものです。

教師が指導略案のように活用することで、自身の動きを確認することができます。児童生徒に見通しをもたせることで、集中力の持続、気持ちの調整や意欲の向上を図ることなどを自立活動の目標として捉えることができます。

\*自立活動の内容（6区分27項目）(注1)から考えられる項目

- （例）2 心理的な安定（1）情緒の安定に関する事
- 2 心理的な安定（2）状況の理解と変化への対応に関する事
- 4 環境の把握（5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事

注1：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）



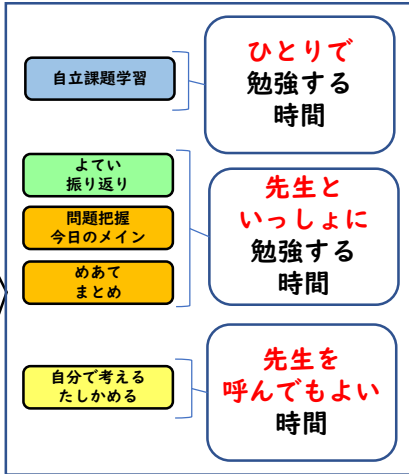
### ヒント

- ◎単元名やめあて等の記入、児童生徒にとって分かりやすい活動内容の表記や色分け等の工夫により、児童生徒の主体性や意欲の向上に繋がります。
- ◎授業の導入や終末に、児童生徒全員で取り組む共同学習を取り入れることも効果的です。
- ◎児童生徒には個々の実態に応じて、個別又は全体の授業構成表を提示します。
- ◎授業の導入で児童生徒と一緒に本時の授業構成表を確認します。また、終末で振り返りにも活用することができます。

## 2. 授業構成表の活用

- ◎授業の導入・展開・終末において、各学年のめあてや問題把握、練習、確認等の学習活動と『自立課題学習』の場面を表に示します。
- ◎児童生徒の実態や授業内容を考慮して、自立課題学習の場面を設定します。

学習内容ではなく、**学習活動のまとめ**で示しています。



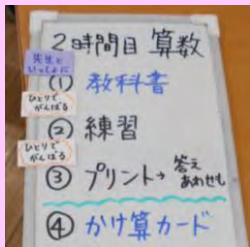
### 取組事例

### 3学年が在籍する学級の授業構成表の例

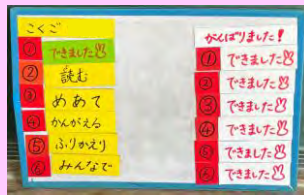
学年	1年生	3年生	5年生
单元名	大きいかず	三角形	円と多角形
めあて	ぼうのかずがわかるようにならべてかんがえよう。	辺の長さに目をつけて、なかまに分けよう。	六角形の辺や長さや角の大きさを調べよう。

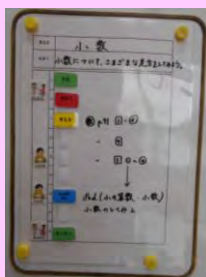
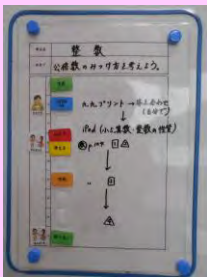
時間	よてい		
5	問題把握	自立課題学習	自立課題学習
10	めあて		問題把握
15	自立課題学習	問題把握	めあて
20			めあて
25	今日のメイン	自分で考える	
30	まとめ		今日のメイン
35	たしかめる	今日のメイン	まとめ
40		まとめ	たしかめる
45	振り返り		



児童の理解度に合わせて、活動内容をシンプルに示しました。



マグネットのカードで構成表を提示しました。1つの活動を終わるとカードを裏向きに貼ります。取り組んだことが視覚的に分かるように工夫しました。



マジックテープを使って学習活動のカードを作成しました。毎時間の掲示用の構成表が作成しやすくなりました。先生と一緒に勉強する、一人で勉強するというイラストも貼って児童が理解しやすい工夫をしました。



教科書のページを授業構成表に記載しました。導入で、児童が自分の構成表をノートに書き写す取組も行いました。

### 3. 学習環境の工夫



- 自閉症のある児童生徒の特性に配慮した学習環境には、どのような工夫があるのでしょうか。
- 児童生徒が学習に集中できる学習環境にするには、どうしたらよいのでしょうか。
- 教室や校内にある物を上手く利用することはできないのでしょうか。
- 学習環境の工夫の他に、児童生徒に支援を行う上でどのようなことを大切にするとよいのでしょうか。



このような課題を解決するために、3つめのポイントとして『学習環境の工夫』を提案します。

自閉症のある児童生徒の特性に配慮した学習環境の一つとして、構造化の考え方がよく取り入れられます。物理的構造化、時間的構造化（スケジュール）、視覚化、ルーティン化等があります。

自立課題学習の場面で構造化を適切に行い、人的支援だけでなく物理的支援へと段階的に移行していきやすいようにすることが大切です。学習環境を児童生徒の実態に応じて工夫改善することにより、児童生徒が主体的に授業に参加できることを自立活動の目標として捉えることができます。

＊自立活動の内容（6区分27項目）（注1）から考えられる項目

- （例） 1 健康の保持（4） 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること
- 4 環境の把握（2） 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること
- （5） 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

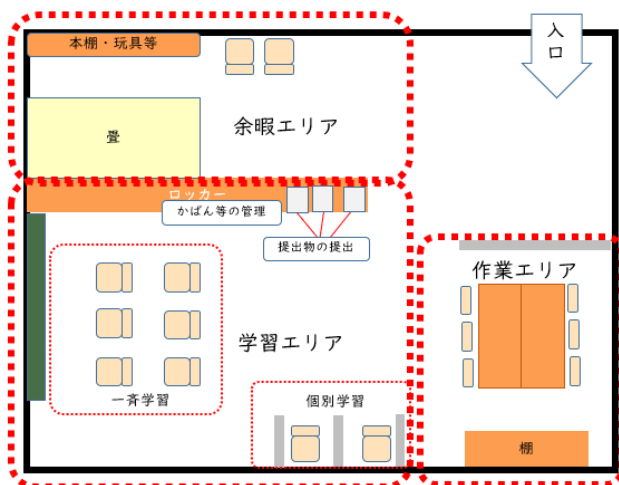
注1：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）



### ヒント

- ◎「この場所では何をやる」というように、場所と活動を固定すると活動内容が明確になります。
- ◎教室にあるホワイトボードや机、棚、かご等を上手く利用し、構造化を行いましょう。児童生徒の状況を確認し、見直すことも必要です。
- ◎目的をもって、座席から立って移動する機会を積極的に作りましょう。
- ◎教師も環境要因の一つであると考え、教師の動きや指示、言葉かけが多すぎないように、配慮しましょう。

### 3. 学習環境の工夫

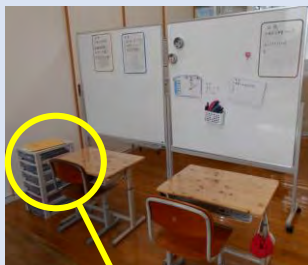


#### 教室づくりのポイント

- ①活動と場所の一致
- ②余暇や休憩時に利用できるスペースの確保
- ③安全への配慮
- ④活動しやすい動線
- ⑤置き場所の表示

1つの場所に1つの目的を決めるのがポイントです。どこでどんな活動をするのかを視覚的に分かりやすく示しましょう。

#### 取組事例



机の前にホワイトボードを設置し、授業構成表等、授業に必要なものを掲示しました。授業中、他の児童の様子が気にならないようにパーテーションとしても活用しました。



学級で全員が使用する道具類は、教室の動線を意識しながら、分かりやすい場所にまとめました。棚等にはラベリングを行い、児童が整理しやすいようにしました。



机の横の棚を離れた場所に置き、教材の出し入れ時に児童が移動するようにしました。目的をもって動く機会があると集中力が高まります。

自立課題学習で取り組んだプリントを答え合わせするコーナーを作りました。児童はそこに移動して答え合わせをします。



リラックススペース。休み時間等はゲームをして過ごす場所として活用しました。時にはクールダウンスペースにもなります。



## 4. 授業づくり3つのポイントによるチェックリストNo.1

自身の授業や教室環境等について、授業づくり3つのポイントでチェックしてみま  
しょう。

(◎：できている ○：少しはできている △：あまりできていない)



	チェック内容	評価
自立課題学習の場面の設定	○児童生徒の実態に応じた課題設定ができている。	◎・○・△
	○課題の難易度・量は児童生徒が自力解決できるものを準備している。	◎・○・△
	○児童生徒の興味・関心のある内容となっている。	◎・○・△
	○児童がICTを活用している。	◎・○・△
	○自立課題学習の準備や後片付けを児童生徒が行っている。	◎・○・△
	○児童生徒が自ら答え合わせ等をしている。	◎・○・△
	○評価を視覚化し、児童生徒が達成感を実感できるよう工夫している。	◎・○・△
	○自力で取り組めるように支援ツール（教材・教具）を準備している。	◎・○・△
	○「どこで」「何を」「どれだけ行うのか」「終わったら何をするのか」を視覚的に提示している。	◎・○・△
	○児童生徒が集中して取り組んでいる。	◎・○・△
授業構成表の活用	○めあてを記入している。	◎・○・△
	○授業者の1時間の動きが明確になっている。	◎・○・△
	○児童生徒が学習活動の見通しを持っている。	◎・○・△
	○授業の導入で児童生徒と一緒に1時間の流れ（スケジュール）を確認している。	◎・○・△
	○授業中、黒板やホワイトボード等に掲示している。	◎・○・△
	○児童生徒の実態に応じた提示の工夫（個別・全体）をしている。	◎・○・△
	○授業の終わりに振り返りとして活用している。	◎・○・△
	○児童生徒に分かりやすい表記にしている。	◎・○・△
	○授業構成表に示したように授業が進んでいる。	◎・○・△

## 4. 授業づくり3つのポイントによるチェックリストNo.2



(◎：できている ○：少しはできている △：あまりできていない)

	チェック内容	評価
学習環境の工夫	○「どこで何をするか」という場所と活動を固定化し、明確にしている。	◎・○・△
	○ホワイトボード等を利用し、個別学習のスペースを作っている。	◎・○・△
	○集中しにくい時などに落ち着けるよう休憩スペースがある。	◎・○・△
	○学級で共有して使う道具等を置く場所を決め、ラベリングしている。	◎・○・△
	○児童生徒の動きを配慮し、棚やプリント提出かごの置き方を工夫している。	◎・○・△
	○授業でのルールを視覚的に掲示している。	◎・○・△
	○既習事項や学習のヒントを前もって板書等で示している。	◎・○・△
	○分かりやすい指示を心掛け、指示や言葉かけが多くなならないよう留意している。	◎・○・△
	○直接（個別）指導の際に、児童生徒との距離が近くなりすぎないように配慮している。	◎・○・△
	○授業者の動きが多くなり、児童生徒が受け身にならないよう配慮している。	◎・○・△
その他	○落ち着かない時等にどうすればいいか、児童生徒とルールを決めている。	◎・○・△
	○学級全員で取り組める活動を設定している。	◎・○・△
	○授業内容をはじめ、交流学級の授業とのつながりを意識している。	◎・○・△
	○直接指導では板書を行い、通常の学級の指導形態を意識している。	◎・○・△
	○他の教職員に授業を参観してもらう機会を積極的に設けている。	◎・○・△

※「授業づくり3つのポイントによるチェックリスト」の項目は、自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会のメンバーが授業実践を通して工夫した点を基に作成しました。





参考資料～さらに学びを深めるために～

和歌山県教育センター学びの丘作成  
特別支援教育資料

<http://www.manabi.wakayama-c.ed.jp/tokusi/tokusi.html>



初めて特別支援学級を担当する先生のための  
スタートガイド



初めて特別支援学級を担当する先生のための  
自立活動の指導



授業づくりについて知りたい

国立特別支援教育総合研究所作成



知的障害特別支援学級担任  
のための授業づくりサポ  
ートキット (小学校編)  
すけっと



インターネット講義を受けたい

NISE学びラボ



[https://www.nise.go.jp/nc/training\\_seminar/online](https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/online)



令和3年度自閉症・情緒障害特別支援学級授業づくり研究会

協力教員 田辺市特別支援教育研究会会員 (自閉症・情緒障害特別支援学級担当)

田辺市立鮎川小学校	教諭	小田 奈都美
田辺市立稲成小学校	教諭	物部 瞳
田辺市立新庄小学校	教諭	和田 友里恵
田辺市立中辺路小学校	教諭	井谷 圭利
田辺市立三栖小学校	教諭	澤田 朋実

指導助言 田辺市教育委員会学校教育課  
和歌山県教育センター学びの丘

指導主事	中谷 賢行
教育企画員	中元 晶子
指導主事	草羽 信幸
指導主事	鈴木 真紀
研修員	三木 明日香

研究開発課